

ぼうさい

No.115

不屈の大地 Build Back Betterの軌跡

平成28年(2016年)・熊本県
熊本地震からの復興

特集

「平成28年熊本地震」から10年
～経験と教訓をこれからの防災に活かす～





平成28年(2016年)・熊本県 熊本地震からの復興

平成28年(2016)年4月に発生した熊本地震。2度の最大震度7を含め、震度6弱以上の揺れを3日間で7回観測するなど、繰り返す激しい揺れが被害を拡大させました。

阿蘇市でも激しい揺れにより家屋や山腹の崩壊、道路や橋梁の寸断が相次ぎました。地域の象徴でもあった阿蘇神社も壊滅的な被害を受け、中でも「日本三大楼門」の一つとして知られる楼門の倒壊は、市民に大きな衝撃を与えました。

被災した神社の復旧は、国・熊本県・阿蘇市の補助事業として進められました。楼門は全解体修理を行い、部材の約7割を再利用したうえで、耐震性が向上させるための構造補強を施し、令和5年(2023年)12月に修復を完了しました。

南阿蘇村でも強い揺れで家屋の倒壊や土砂災害が発生し、甚大な被害となりました。



平成28年(2016年)4月20日に国土地理院が撮影した航空写真による阿蘇神社の様子(国土地理院の航空写真を加工)



本震発災後の平成28年(2016年)4月16日午前に国土地理院が撮影した写真。南阿蘇鉄道の線路に崩れた土砂が流入している(国土地理院)



修復された楼門(令和8年(2026年)2月撮影)



全線復旧した南阿蘇鉄道。雄大な景色の中を行く(令和8年(2026年)2月撮影)

阿蘇地域では是非訪れたいのが、特集記事でも紹介している南阿蘇村の「熊本地震震災ミュージアムKIOKU」です。熊本地震の記憶や経験を後世に伝え、自然とともに生きることを考える施設で、展示棟と震災遺構(旧東海大学阿蘇キャンパス1号館と地表地震断層)からなります。展示は震災の実情を伝える物や写真、映像を通して地震の「その時」を振り返り、熊本の大地の成り立ちや風土を学び、最後に地震の教訓を自分たちの身の回りに置き換えてどのように備えればいいのかを考える内容で、熊本地震を通じて防災の本質を学ぶことができます。



▲熊本地震震災ミュージアムKIOKU(令和8年(2026年)2月撮影)

CONTENTS

不屈の大地 Build Back Betterの軌跡 「平成28年 熊本地震からの復興」	1
特集 「平成28年熊本地震」から10年 ～経験と教訓をこれからの防災に活かす～	3
防災の動き	
・内閣府（防災担当）防災計画担当／内閣府（防災担当）調査・企画担当 首都直下地震の新しい被害想定と実施すべき防災対策 ～首都直下地震対策検討ワーキンググループ報告書公表～	7
・内閣府（防災担当）防災計画担当 令和7年度第二回防災経済コンソーシアムを開催	9
・内閣府（防災担当）防災計画担当 防災×テクノロジー官民連携プラットフォーム（防テクPF） 第12回マッチングセミナー（東京）を開催！	10
・内閣府政策統括官（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当 北濱 諒 「NIPPON防災資産」の第2回認定式	11
・内閣府（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当 参事官補佐 澤 邦之 被災者援護協力団体登録制度の運用を開始しました ～災害NPO・ボランティア団体と行政の顔の見える関係づくり～	13
・気象庁大気海洋部気象リスク対策課 令和8年（2026年）5月から防災気象情報が新しくなります	15
・総務省情報流通行政局放送業務課 地域密着のラジオ放送を通じた防災教育・地域防災力の強化	17
・総務省行政評価局行政相談企画課 令和7年度における総務省の特別行政相談活動	19
・京都府亀岡市自治防災課 未来の防災は「事前予防」がカギ。 ～国内初の「国際安全都市アジア市民大会」を京都府亀岡市で開催！～	20
・埼玉県行田市危機管理課・行田市消防本部 消防用井戸を活用した行田市の取り組み	21
・奈良県生駒市危機管理課 全国初！250人規模の避難所宿泊訓練	23
・愛媛県松山市市民防災安全課 まつやまジュニア防災リーダークラブ	25
防災リーダーと地域の輪 第59回	26
・沖縄県石垣市白保公民館 前館長の世持豊さん 過去の津波の教訓が伝わる白保地区の車避難を盛り込んだ地区防災計画作り	

表紙写真

熊本地震による倒壊から構造補強を施して修復された「日本三大楼門」の一つである阿蘇神社楼門と、廃線の不安も囁かれた長い連休から復旧し、耐震強化された第一白川橋梁を渡る南阿蘇鉄道の車両（いずれも令和8年（2026年）2月撮影）

